

思い出デストロイヤー:立ち直り支援のための iPhone アプリケーション

渡辺 翔大[†] 橋田 光代[†]
平野 砂峰^{††} 片寄 晴弘[†]

失恋は人に深い悲しみなどの大きな影響を与える。同時に、失恋を乗り越えることで人間は成長すると言われているが、失恋から立ち直る為には長い時間精神を癒す必要があると言われている。本稿では、失恋に代表される辛い過去からの立ち直りが必要なシチュエーションにおいて、使用者の自立を支援する iPhone アプリケーションを提案する。

Memories Destroyer: An iPhone Application for Recovery from Depression

SHOTA WATANABE,[†] MITSUYO HASHIDA[†] and HARUHIRO KATAYOSE[†]

When we are disappointed in love, we suffer mental depression and distress. Though we can grow up mentally by getting over the disappointed love, it requires time for healing the broken heart. This paper proposes an iPhone application, in the context of “catharsis,” that assists its users in recovering from mental depression including disappointed love.

1. はじめに

「失恋」とは、恋愛対象と捉えた相手への感情が結果的に成就されないことである。また失恋を克服した後は人間的に大きく成長すると一般的に言われている。しかしその克服は容易ではなく、失恋した際、人は泣いたり趣味に没頭するなどの対処行動に走る。これらの対処行動を心理的な視点で分析を試みた研究として、Bowlby や石本らの研究¹⁾がある。石本らは失恋した際、「自殺を考えた」「殺したいと思った」「暴力的になり八つ当たりした」など Bowlby(1980) が提唱する第1段階の興奮、パニックに相当する反応を起こす人がいると述べている。

本稿では「失恋」などに代表される立ち直りが必要な状況での、激しい破壊衝動に対しての代償行為に着目し、利用者の過去との決別を促し立ち直りを支援する iPhone アプリケーションを提案する。ユーザーの心的負担を解消する代表的な携帯アプリの既存事例として、株式会社ブレイブソフト制作の iPhone アプリ「PICTROID」²⁾ や Webxit 氏制作の Android アプリ「Display Shot」³⁾ が挙げられる。これらのアプリ

は、撮影した写真に対して破壊衝動をぶつけてフラストレーションを解消するストレス発散型アプリであるが、あくまでストレスの発散を目的としたものであり、過去の辛い出来事や失恋からの立ち直りを支援するインターフェースとしては十分なものとは言えない。

2. コンセプト

失恋は恋愛が破綻することにより起こる。失恋の際、人には自身の過去を消したいと思う感情、あるいは殺人衝動など過度の破壊衝動が喚起されることがある。しかしそれらは社会的にも法的にも許される物ではないため、代償行為として過去の象徴である写真を焼却したり破いたりする人も少なくない。恋愛に限らず、同様に心的な落ち込みが発生するような状況に陥ってしまった場合、自分の過去と対峙し、それを代償行為として破壊することが可能になれば、それにより生じるカタルシス^{*}によって自立の支援につながる。また、短時間で落ち込みから復帰できれば社会的利益にもなり得る。本稿では、ユーザが所有している消し去りたい過去に関連する写真に対して、破壊衝動の代償行為を支援するインターフェースの提案を行う。そのために必要な5つの具体的なデザインを提案する。1、プライベート性の高い携帯電話として iPhone を媒体にする。2、代償行為を促進させるエフェクトで統一する。3、iphone が持つ機能 imagepicker で保存した写真

[†] 関西学院大学理工学部

Kwansei Gakuin University School of science and engineering

^{††} 京都精華大学

Kyoto Seika University School

^{*} 本稿では心的な浄化を指す

を対象可能にする。4, バイブレーション機能を利用し, ユーザがシステム利用時に破壊した実感をより効果的に得られるようにする。5, 多様なエフェクトを用意し, 好きなタイミングで破壊した写真をライブラリに保存できるようにすることで, 気の済むまで破壊を繰り返せるようにする。この5つの要件に関して, 本システムと既存システムと比較するした結果を(表1)に示す。立ち直りを支援に関して, 提案システムが従来のシステムよりも適していることが判る。

3. 機能概要

本システムは iPhone アプリケーションである。iPhone が持つ機能から, タッチパネル, タイマー機能, バイブレーション機能, カメラ機能, ネットワーク機能, アニメーション機能を用いている。ユーザがアプリケーションを起動すると, テーブル形式でエフェクトの選択画面が表示され, ユーザはその中から自由にエフェクトを選ぶことができる。選択すると, 該当するエフェクトを発生させるにはどうすれば良いか動作の解説画面図1が現れ, ユーザは自分が所持している写真の選択, もしくはカメラで写真を撮影することにより, エフェクトをかける対象の写真を選定する。

エフェクトは全部で6種類あり, それぞれ「銃で撃つ」「ひっかく」「燃やす」「吹き飛ばす」「切断する」「過去に追いやる」にした。基本的に全てのエフェクトが効果音とバイブレーションと同時に発生するが, 「吹き飛ばす」のみバイブレーションは発生しない。「銃で撃つ」では画面をタッチすると, 銃声と同時にタッチした箇所に銃跡のエフェクトが表示される。「ひっかく」では画面へのスワイプを検知しており, 上下左右のスワイプした方向に対応したエフェクトと決ったような効果音が発生する。「燃やす」では, 指でなぞった軌跡に焦げ跡のエフェクトがかかり, 同時に指が画面に触れている箇所に炎のエフェクトが追従する。効果音は火の粉が飛び散る効果音である。「吹き飛ばす」では, 画面をタッチすると扇風機が回るアニメーション



図1 思い出デストロイヤー利用画面例

と, 画像がめくれ上がるようなアニメーションが生じる。効果音は風の音である。「切断する」では画面に触れた座標に対応して画像が切断されるエフェクトと, 切断音の効果音が生じる。「過去に追いやる」は, 取得した写真のRGB値を二値化し, 遺影を模したエフェクトと, タッチすると鳴る鈴が配置される。

4. 展望

本稿では「消したい思い出」に対してエフェクトをかけて消し去ることによって, カタルシスを実現するインタフェースを提案した。本システムは失恋以外のストレス解消にも利用可能である。また, 本システムの「携帯電話を使って自分の負の記憶と向き合い, それを加工, 破壊することでユーザの創造性とカタルシスを以てストレスを対処する」という方法は, 新しいメンタルケアのスタイルに昇華できるのではないかと考えられる。さらに警視庁の調査⁴⁾ではストーカー被害の約66%が過去のパートナーであるという結果が出ているため, 人が失恋を克服できなかった場合ストーカーなどの行為に走る危険性があると考えられる。本システムによって失恋からの立ち直りが促進されれば, ストーカー行為など失恋によって起こる犯罪防止対策としても利用価値を見いだせる。今後は上記の考察を検証するための評価実験の実施, 市場に流通させることでユーザからのレスポンスのフィードバック, さらなるエフェクトの追加など拡張機能を検討している。

参考文献

- 1) 石本奈都美・今川民雄 (2001). 青年期における失恋後の立ち直り過程. 対人社会心理学研究, 1, 119-132. http://ir.library.osaka-u.ac.jp/metadb/up/LIBJ.JISP/jjisp01_119.pdf
- 2) 株式会社 Bravesoft <http://www.bravesoft.co.jp/pictroid/>
- 3) AndroLib http://jp.androlib.com/android.application.webxit-displayshoot-pACB.aspx_hftyosa00/
- 4) 警察庁統計で見るストーカー被害の実態 <http://www.stalkerbusters.com/stalker/umareru.htm>

表1 本システムと既存システムの比較

Table 1 Comparison of this system and existing system

	本システム	PICTROID	Display Shot
保存写真の利用	○	×	×
カメラ機能	○	○	×
ネットワーク連携	○	×	×
バイブレーション	○	×	×
指のモーション対応	○	×	×
エフェクトの種類	○	×	△
複数エフェクト加工	○	×	×
効果音	○	○	×